

高橋ちづ子さん7選 「東北の命綱」の1議席確保

3区で比例票伸ばし、県全体は得票率で前進 選挙区3氏健闘

山形県の総選挙の結果について

2021年11月2日 日本共産党山形県常任委員会

総選挙で日本共産党を支持してくださった山形県内の有権者のみなさん、支持者、後援会員、サポーター、党員のみなさんに心から感謝申し上げます。

(1)

日本共産党は、衆議院選挙は自公政権が続けるのか、政権交代で新しい政治をつくるのかが問われる大事な選挙として、共通政策、政権合意、候補者一本化でのぞみました。自民・公明政権の継続となつたことは残念ですが、歴史的意義をもつ選挙になりました。

小選挙区では、県内4党合意にもとづいて、1区(原田まさひろ氏)と2区(加藤けんいち氏)で野党統一候補を擁立し、唯一の野党候補(梅木たけし氏)の3区とも、野党の共通政策の合意にもとづいて、史上初めて候補者の一本化ができました。自公政治に代わる新しい政治をつくるにあたって、歴史的な大きな一歩をのりました。議席獲得には至りませんでした。小選挙区のそれぞれで、野党の共闘が取り生まれ、新しい絆が広がりました。このことは、必ず今後生きるものと確信しています。

同時に野党共闘は、今後の課題も残りました。11月1日の日本共産党常任幹部会声明が「特に野党が力を合わせて、共通政策、政権協力の合意という共闘の大義、共闘によって生まれうる新しい政治の魅力を、様々な攻撃を打ち破って国民に伝えきれなかつた」と指摘したように、今後の取り組みの強化が求められます。

「共闘の道」の発展が、今後の新しい政治をつくることは疑いがありません。他の野党のみなさんや市民連合やまがたのみなさんと話し合い、総選挙のたたかいから教訓を引き出し、山形県内の市民と野党の共闘を進展させる決意です。

(2)

比例選挙では東北ブロックで2議席への倍増をめざし、県内の小選挙区のが党候補と野党統一候補の勝利と一体にたたかいました。激戦の中、高橋千鶴子候補の議席を守ることができたことは大きな喜びです。

びです。山形県党は、得票の倍増をめざして奮闘しましたが届きませんでした。自力の不足を痛感します。県党は党の自力をつける活動、世代的継承の活動に取り組んできましたが、道半ばです。この取り組みを必ず成功させ、次の機会では必ず大きな前進を図る決意です。

(3)

選挙戦で、わが党はコロナから命を守る政策とともに、自公政治からの「4つのチェンジ」——①新自由主義を終わらせ、命・暮らし最優先の政治、②気候危機を打開する「2030戦略」、③ジェンダー平等の日本、④憲法9条を生かした平和外交を訴えました。

選挙後も今後の国政選挙でも、国民運動の面でも大いに重視し、取り組みを発展させたいと考えています。総選挙で掲げた公約実現をめざし、新たな決意で奮闘する決意を表明します。

(4)

来年は参議院選挙が行われます。また、日本共産党は創立100周年を迎えます。また、日本共産党は参議院選挙で、今度こそ市民と野党の共闘を発展させながら日本共産党躍進をかちとる「二大目標」をやりとげ、党創立100周年を新しい政治をめざす大きなうねりの中で迎えることができるよう全力をつくす決意です。



選挙結果を受け、公約実現へ決意を語る梅木たけし氏
11月31日・鶴岡市

酒田市議選で日本共産党2議席確保 衆院比例も407票増

10月31日投開票された酒田市議選(定数25、3減、立候補30人)で、日本共産党はいずれも現職の市原栄子氏(60)が14位、齋藤ひろし氏(61)が21位で当

選し現有2議席を確保しました。2人の得票総数は3340票(前回2738票)で、得票率6.05%(同5.36%)。得票で前回から602票増やし、率

チェンジによる政権交代を訴え、比例代表では酒田市で3741票を獲得し、前回比407票増やし、得票率も0.99ポイント伸ばしました。

日本共産党と後援会は、市原、齋藤両氏を先頭に、市民の命と暮らしを守るために▽学校給食費の無償化▽高校生まで医療費の無料化▽国保税の引き下げ、子どもの均等割の軽減▽介護保険料の軽減など公約を訴え、支持を広げました。



当確を喜ぶ市原氏(左から3人目)



当確を喜ぶ齋藤氏(右から4人目)

でも0.69ポイント伸ばしました。議席占有率は8.0%(同7.14%)になりました。投票率66.27%(同57.74%)。市原、齋藤両氏は、総選挙と投票日が重なるなか、市民と野党の共闘とともに比例代表での躍進と、4つの